



# 本語教師のための学習ページ

日進月歩: 日に日に進化する日本語教育情報を紹介します

# 日進月歩



日本語情報誌「Ja-Net (ジャネット)」(スリーエーネットワーク社) から、日本語教育に関する記事を紹介しします。

No.49 2009年4月25日発行

## 横浜外国人居留地の奇妙で愉快的な日本語

◆ アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教授

まつもと たかし  
松本 隆



私の職場がある横浜はこの夏、開港 150 周年を迎えます。江戸時代末期、わずか 100 戸ほどの寒村にすぎなかった半農半漁の横浜が、突如、多言語の飛び交う国際的な貿易港に生まれ変わりました。幕末の横浜に思いをよせ、古い資料を眺めるのは興味が尽きません。開港から幕府瓦解そして新政府樹立へと歴史の曲がり角にあたる時期に横浜で発行された出版物のうち、言語接触、異文化交流、多文化共生という観点から特に面白そうな数点をご紹介します。

### 当時の商売はおおかた手真似で

まずは冒頭に掲げた「横浜異人館売場之図」と題する浮世絵をご覧ください。作者の五雲亭貞秀は外国人居留地での見聞をもとに報道性の高い作品をかきおろした絵師で、本作からも当時の様子をうかがい知ることができます。ご注目いただきたいのは右半分に描かれた、言葉の通じない西洋人と日本人が身ぶり手ぶりで商談をしている光景です。さらに、その後ろに控える中国人の姿も見落とせません。当時の外国商館には「南京さん」あるいは「管

夫さん」(買弁を意味する comprador の略) と呼ばれる仲介者が不可欠でした。かれらは西洋の商習慣に通じ、また日本人と漢字による筆談が可能でしたので、商館の事務手続き全般を取り仕切っていました。

その後半世紀をへて横浜貿易新報(神奈川新聞の前身)が開港 50 周年企画として、往時の横浜を知る人々への聞き書き記事を連載しました。ある古老によると「当時の商売はおおかた、手真似で、品物の数も、値段もみな指の先で答えるばかり」でしたが、この方法は「割合に間違いが少なかった」そうで「かえって少しずつ言葉がわかるようになってから間違いも出る」ようになったそうです(『横浜どんたく』上巻 p.175 所収)。別の古老も「なまじっか、片言をいって相手を迷わすよりも、手真似の方がかえって通じがいい」と述懐しています(同 p.171)。

### しどく高うござるから買いますまい

外国商館の欧米人は、横浜進出に際し中国から伴った買弁に頼り、本腰を入れて日本語を学ぼうとはしませんでした。しかし中には日本の言語や文化を

そんな人となら次のような  
片言の江戸語で商談が交わされたことでしょう。

《会話1》外国商館員 (F) と日本の売り込み商人 (J)

- F<sub>1</sub>: あなた、銅、ござりますか。  
 J<sub>1</sub>: なに、種類を、あなた、入り用なさるか。  
 わたくし、針金、板、釘、ござります。  
 F<sub>2</sub>: 板の値段は、いかほどでござりますか。  
 J<sub>2</sub>: わたくし、板を洋銀 10 枚で売りましょう。  
 F<sub>3</sub>: あなたの品物は、しどく高うござるから、  
 わたくし、買いますまい。  
 J<sub>3</sub>: 釘ならわたくし下直に売ることができます。  
 F<sub>4</sub>: もし、あなた、安く売りますならば、  
 わたくし、買いましょ。

この商談は、1862 年刊行の商用英会話入門書『和英商話』の和訳文（原文はカタカナ表記）に少しだけ手を加えて再構成したものです。著者の米国人ヴァンリード (Eugene M. Van Reed) は英文の序で、自分が用いた表現を日本人の助力を得て編集した経緯に触れ、初の刊行ゆえ数多くの問題点には目をつぶってほしいと述べています。英日対訳式の英文のほうはいいとして、和訳文は実際に数々の問題が目につきます。しかし本書はそれだけに、開港まもない横浜の言語状況つまり外国人が話していた日本語を知る絶好の資料になります。

まず上の会話で特徴的なのは「ござる」を基調とする武士のような話し方で、しかも「ござります」ではなく「ござります」という古風な表現が目がまります。また F<sub>3</sub> の文末「～ますまい」という意志の打ち消し表現にも時代を感じます。J<sub>1</sub> の「しるい（種類）」と F<sub>3</sub> の「しどく」は江戸なまりです。それに続く「高うござるから」の「から」も江戸らしい表現で、上方なら「さかい」で理由を述べます。「高うござる」のウ音便は一見上方風ですが「ござる」に連なる形容詞がウ音便になるのは江戸でも一般的でした。

## ヨコハマナマリワハナハダワルゴザル

このように《会話1》を眺めると、ヴァンリードが習得を目指したのは、武士を中心とする知識層の江戸語だったことがわかります。その言語観は『和英商話』のなかの「The official dialect is the best ヤクニンノクチヲキクノワイチバンヨウゴザル」という例文からも見てとれます。江戸時代の役人は即ち武士であり、武家の言葉が少なくとも江戸周辺では公用語 (official dialect) であったわけですから。同時にヴァンリードは、横浜居留地で発生した混成語つまりピジン (pidgin は business の中国なまりとされる) に批判的で「The Yokohama dialect is a very bad one ヨコハマナマリワハナハダワルゴザル」と例文のなかで述べています。ここでいう dialect とは、地域的な方言というより、ある言語集団独特の言い方を指しています。

1862 年に英国領事館に着任したサトウ (Ernest M. Satow) も、回顧録『一外交官の見た明治維新』において横浜のピジンを批判し、次のように述べています (岩波文庫版上巻 p.21)。

“商用のための一種の私生兒的な言葉が案出されていたのだ。中でもマレー語の駄目 Peggi、破毀は大きな役をつとめ、それに「アナタ」と「アリマス」とを付け加えて、自分は複雑な取引をやる資格を持っていると銘々がそう思いこんでいた。この新造語の著しい特徴は、対話者相互の社会的地位を示す日本語のはなはだしい多様性と動詞の複雑な変化がないことである。”

サトウのいう「商用のための新造語」が Yokohama dialect を指すことは、ヴァンリードの「The merchants have improper manner of speaking アキンドワハナスグワイガヨクゴザラヌ」という例文からも明らかです。しかし皮肉なことに、先の《会話1》を見るかぎり、ヴァンリードの日本語もピジンの性質を帯びていたようです。

## Nihongo moods cashey. Yokohama dialect die job.

先の銅の商談内容を、さらにピジン化の度合いを強めて書きかえると次のようなやりとりになります。

《会話2》ピジンによる商談

F<sub>1</sub>: あなた、銅、あります?

J<sub>1</sub>: なに、あなた、あります?

わたくし、針金、板、釘、あります。

F<sub>2</sub>: 板、いくら?

J<sub>2</sub>: 10 ドラ、あります。良か?

F<sub>3</sub>: 高い、あります。

J<sub>3</sub>: わたくし、釘、安い、あります。

F<sub>4</sub>: あなた、安い。わたくし、買う。

あなた、高い。わたくし、駄目、駄目。

この会話は、明治初頭の『Exercises in the Yokohama Dialect』という横浜ピジンを英文で解説した冊子、ならびに幕末刊行の横浜案内『横はま見やけ』と『横浜繁昌記』にあるピジンの語彙と会話をもとに構成したものです。話の流れは、《会話1》も《会話2》も同様ですが、《会話2》のほうがずっとピジン的です。つまりサトウが指摘するように「あります」という動詞の意味を多義的に拡張して用い、また「あなた」や「わたくし」を頻用する一方で、助詞の「が」や「は」を省いた単純な文構成になっています。

混成語であるピジンは複数の言語から語彙を取り入れており、F<sub>4</sub>最後の「駄目」はサトウのいうようにマレー語源だとする説が有力で、J<sub>2</sub>の「良か」は九州の方言です。運上所（税関）勤務の長崎通詞（通訳官）らの存在が影響しているようです。

さて外国人居留民むけに書かれた『Exercises in the Yokohama Dialect』は機知に富んだ軽妙な演習書で、例えば第5課まで自習すれば、英単語の綴りを連想の手がかりとして次のような横浜ピジンの作文ができる仕組みになっています。〔例〕Nihongo moods cashey. Yokohama dialect die job. Walk-arimas.

〔訳〕日本語（は）むずかしい（ですが）横浜ダイアレクト（は）大丈夫（です）。わかります。

### 売ることができる vs. 売れる vs. 売られる

先のヴァンリードの《会話1》に「あります」は出てきませんが、その代わり「ござります」が同様の機能を果たし、また「あなた」や「わたくし」を頻用する一方、助詞の「が」や「は」を欠くなど、ピジンの特徴を見出せます。もちろん《会話1》は《会話2》よりも自然な江戸語に近いわけですが、『和英商話』全体を通してみると、例えば可能表現はJ3にみるように「売ること（が）できる」だけを専ら使い、江戸語で一般的だった「売られる」や、やがて隆盛する「売れる」という語形は用いていません。動詞の終止形に「ことができる」を付けるだけなら、サトウのいう「動詞の複雑な変化」が必要ありませんから、活用を気にせず楽に話せます。

非母語話者の話し方、ならびに外国人に向けた母語話者のいわゆるフォレナートークは、母語話者同士の滑らかで多様性ゆたかな表現に比べて、ぎこちなく人工的なのは否めません。しかし社会全体が外国語の運用力を高めていく通過点としてピジンを見るなら、そこに積極的な意義も見出せるでしょう。

外国人を封じ込める居留地制度が廃止される19世紀末には、英語や日本語を学ぶ環境も整備され、横浜のピジンは一時代の役割を終え、やがて過去のものとなっていきます。

松本隆（まつもと たかし）

アメリカ・カナダ大学連合日本

研究センター教授。スリーエー

ネットワーク「にほんごCaféシ

リーズ」『韓国語からみえてくる

日本語 韓流日本語鍛錬法』好

評発売中。第4章「日本語と韓

国語の交流」では、現代韓国語

に生きる日本出自の言葉や、在

日コリアンの和風韓国語を扱い、

言語接触の問題を論じる。

